

路傍に佇む野仏との出会い

六甲山自然案内人の会
(1 班担当)

秋も深まり 実りの秋となってまいりました。皆様、お元気にお過ごしのことと存じます。

10 月 10 日(土)は定例観察会にご参加いただきありがとうございます。思ったよりも六甲山は冷え込みましたが、空気が澄み、青空の爽やかな日差しのもと、皆様と楽しく観察会を終えることができましたこと、改めましてお礼を申し上げます。

その時の記録をまとめましたのでお送りいたします。

記

- 1 実施月日 10 月 10 日(日) 快晴(六甲ケーブル駅(8:15)10.5℃, 行者堂(12:15)17.0℃)
- 2 参加者数 ビジター:14 名, 入門コース 5 名, メンバー:16 名 計 35 名
- 3 コース 記念碑台(9 時集合)→前ヶ辻→シュラインロード→逢山峡→有馬口駅(3 時 10 分解散)
(途中 行者堂で昼食)
- 4 配布資料 ①「シュラインロード(唐櫃古道)と野仏」パンフレットと地図、
②触ると危険・有毒な植物、③六甲山の植生の変遷
- 5 観察の概要
 - 六甲山の自然と歴史について
 - ①六甲山開発とグルーム氏、②白髭稻荷大善神・白菊大善神の由来とグルーム地蔵、③シュラインロードと野仏、④役行者と六甲山、⑤四鬼家と六甲山
 - 日本古来の山岳信仰のもと、六甲山も修験行場として役行者により開かれたと伝えられる。四鬼家は六甲山および唐櫃に修験道を持ち込んだ家で、現在も唐櫃に住んでおられる。
 - 江戸時代には、六甲山の南北に物資を運ぶ唐櫃古道があり、唐櫃の村人や利用する人が道中の無事や商売繁盛を願って西国 33 箇所の観音霊場になぞらえて石仏を安置した。
 - 明治時代になって、六甲山開発と植林がおこなわれた。グルームは六甲山開祖と呼ばれた。
 - うるしについて
 - ツタウルシ、ヤマウルシ、ハゼノキ、ヌルデ
 - ツタウルシは、ツル性の落葉木で、樹木や岩などに寄りかかるようにして気根を出してはい上がる。葉はだ円形の 3 枚の小葉からなり、ツタのように一つになることはない。ウルシ科の植物で、野生のウルシのなかまの中ではかぶれる毒性分の強さが最も強い。
 - 六甲山の植生
 - 六甲山頂付近に見られるブナ林は、六甲山では唯一の夏緑自然林。天上寺や大竜寺などのお寺や神社の裏山に自然林が分布している。六甲山を代表する植生は、アカツツ・モリツツ群落とコラーアハマキ群落。
- 6 反省点ほか
 - 六甲山の自然と人との関わりの歴史をおもに説明したので、これまでの例会と趣きが違った。
 - 植物観察に加えて、歴史や昆虫などに焦点を当てた観察会も興味深く参加できるが、ビジターの皆さんに企画の内容を事前に伝えておくとよいと思う。
 - 植物についての質問に答えている間に列が長くなってしまった。何時にどこに集合など伝えておくなど、工夫が必要だ。

以上